

# 神崎市新庁舎建設基本設計（案）

## ① 設計の基本方針

新庁舎の設計にあたっては、「神崎市新庁舎建設基本計画」の基本理念に基づき、現市庁舎が抱える問題・課題を解決し、市民サービスを向上し、まちづくりの拠点となる新庁舎として計画します。

また、市民のためのサービス施設として、将来の行政需要に的確に対応できる、ゆとりや弾力性、さらには、職員が働きやすい環境に配慮しつつ、長期間にわたり使用に耐えられる構造、平面、設備計画とし、機能性と効率性に優れた、使い勝手のよい庁舎として計画します。更に、自然エネルギー等の導入に取り組み、自然との共生を図り、中心市街地における地域の核となる環境配慮型庁舎を目指します。

これらを実現するため、5つの基本方針を定め、各分野の具体的な視点により設計方針として纏めます。

### 5つの基本方針

#### 1. 市民サービスの向上に繋がる庁舎

- ①市民利用の多い窓口を1階に集約
- ②吹き抜け空間であるエントランスホールを中心としたわかりやすい窓口空間構成
- ③情報提供機能の充実
- ④来庁者駐車場の充実

#### 2. 人や環境にやさしい庁舎

- ①ユニバーサルデザインへの配慮
- ②地元産の木材（スギ・ヒノキ）の活用による木材利用を促進
- ③熱負荷を抑制する建築的工夫（西側コアによる西日対策・庇の設置等）
- ④自然エネルギーの活用
- ⑤エネルギー利用効率の向上
- ⑥ライフサイクルCO2の削減

#### 3. 市民の安全・安心を支える庁舎

- ①危機管理機能の強化
- ②地震を考慮した耐震安全性基準の設定
- ③強風による二次被害を考慮した計画
- ④適切な1階の床高さ設定による水害対策

#### 4. まちづくりの拠点となる庁舎

- ①市民スペースの充実化
- ②多目的会議室等の休日開放
- ③来庁者駐車場兼市民広場の確保
- ④長期にわたり品格ある佇まいの保持

#### 5. 経済性を考慮した庁舎

- ①必要最小限で十分な機能を発揮
- ②ライフサイクルコストの削減
- ③将来の変化に対応できる庁舎
- ④省エネルギー対策の配慮



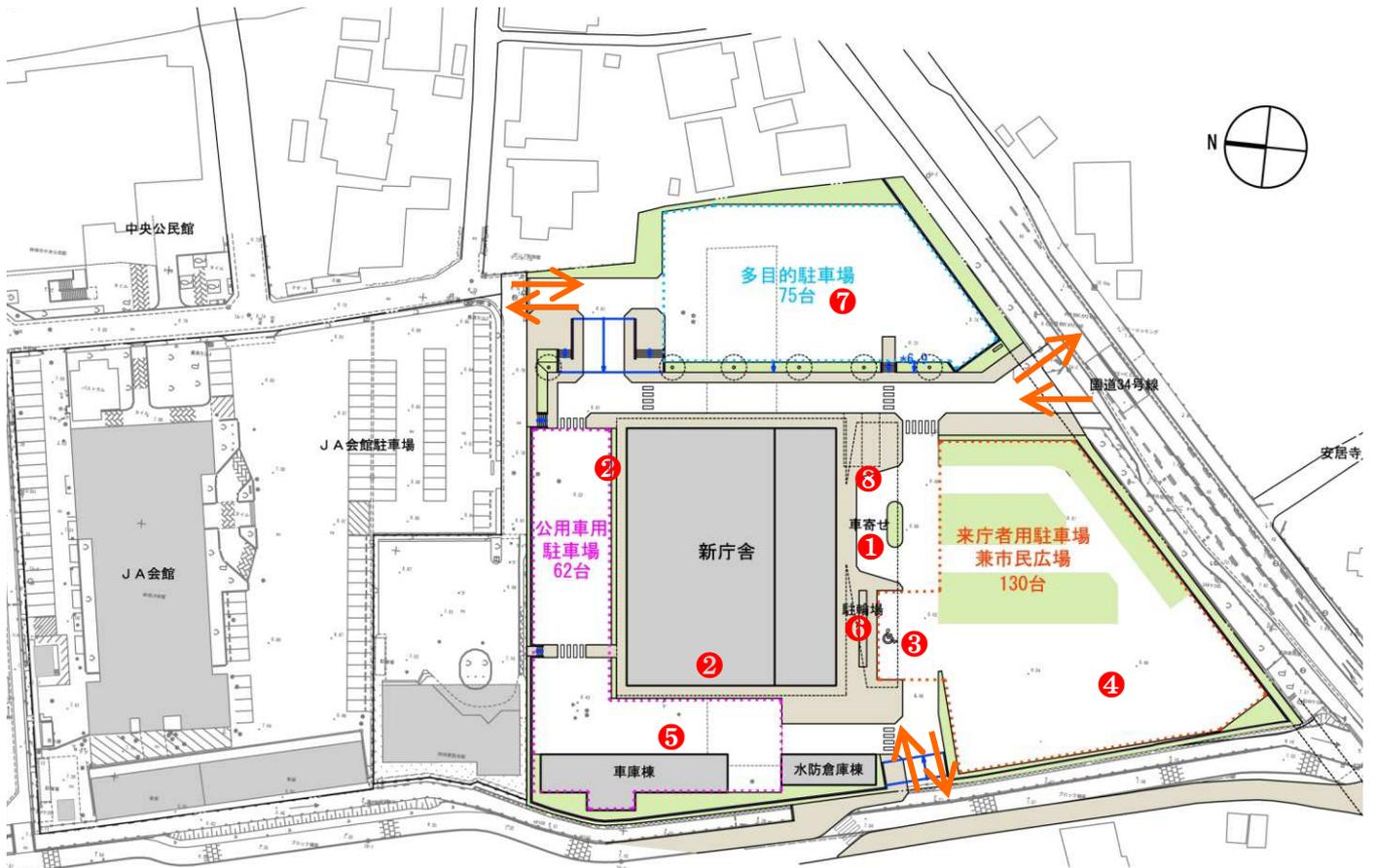
■鳥瞰イメージ

## ② 配置計画の考え方

新庁舎は、周辺への圧迫感の軽減、国道34号線からの引きを考慮し敷地中央部に配置します。庁舎を中心に歩行空間を整備し、周回性を高め各方面からアクセスしやすい計画とします。車道は敷地中央に整備した「並木ストリート」で南北を繋ぐわかりやすい配置とします。これに沿って車寄せや各駐車場を整備することで、車両アクセスの多い来庁者に使いやすい車両動線計画とします。

「並木ストリート」には、桜（市花）を植樹することで、市のシンボルストリートとして整備します。

敷地高さは水害対策として、国道高さ程度まで嵩上げします。近隣住宅に近い東側は、周辺への雨水流出負荷を軽減します。



■配置図

### 1 動線計画

- ①正面玄関：奥行き深い車寄せ庇を設けることで、雨天時にも利用しやすい計画とします。
- ②建物出入口：正面玄関のほかに、北通用口、西通用口の併せて3箇所を設け、どこからでも入りやすい計画とします。

### 2 駐車場・駐輪場

- ③障がい者用駐車場：5台を正面玄関に近接して、庇付きにて整備します。

- ④来庁者駐車場兼市民広場：敷地南西側に130台を確保します。一部を芝舗装とすることで、市民広場として兼用できる計画とします。
- ⑤公用車駐車場：庁舎北西側に62台（内、車庫11台）を確保します。
- ⑥駐輪場：庁舎南側の底下に30台を確保します。
- ⑦多目的駐車場：敷地東側に75台を確保します。イベント時等の利用を想定しています。
- ⑧巡回バス停：車寄せ近傍の底下に市内巡回バスのバス停を設置します。

### ③ 平面計画の考え方

#### 1 利用しやすいフロア構成

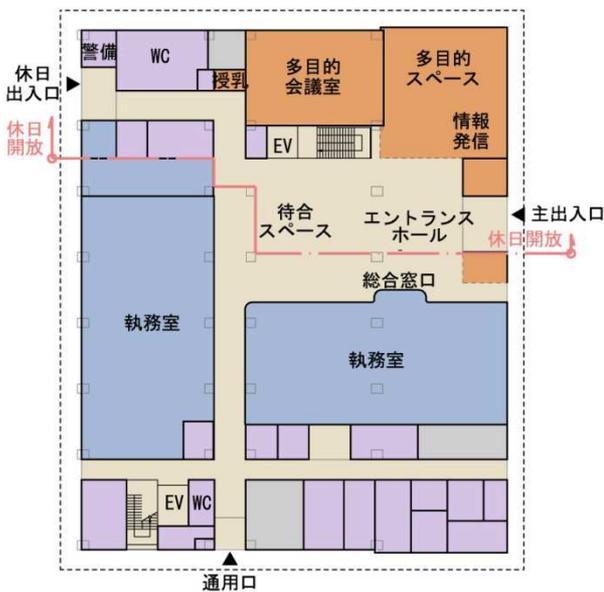
市民サービスの向上、業務の効率化、執行部を中心とする全館機能や議会関連諸室の独立性の確保が行いやすいフロア構成とします。

#### 2 将来の変化に対応できる快適な執務空間

執務空間の平面形は、レイアウトの自由度が高い、ワンルーム形式の空間を基本とします。また、自然採光や自然換気を適度に行える快適な執務空間とします。

#### 3 市民サービス、市民利用スペースの充実

総合窓口にて市民受付を行います。多目的会議室や多目的スペースなど、市民サービスや地域に開放するための施設を1階に集約し、利用時間や利便性に配慮した平面構成とします。



■ 1階（窓口フロア）

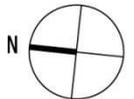
- ① 窓口部分を1階に集約
- ② 休日開放エリアを設ける



■ 2階（執務フロア）

- ① レイアウト自由度の高いワンルーム形式
- ② EV・階段・トイレは東西2か所に配置

凡例



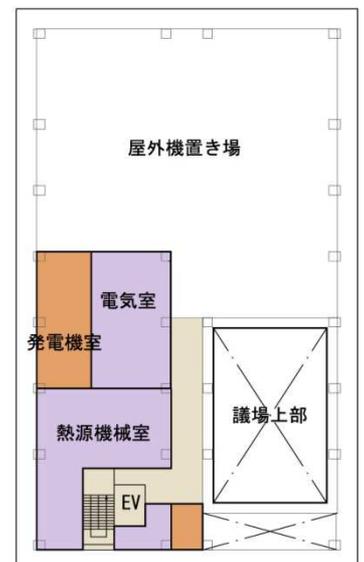
■ 3階（執務フロア）

- ① 災害時の迅速・的確な防災指揮のため、執行部エリアと防災機能を集約配置



■ 4階（議会フロア）

- ① 議会関連諸室の集約配置による独立性の確保



■ 5階（設備フロア）

- ① 基幹設備関係諸室は浸水対策として、5階に配置

## ④ 外観デザインの考え方

### 「神埼宿の歴史性を喚起した“現代的な和”の佇まい」

神埼市は、江戸時代の長崎街道「神埼宿」として栄えた歴史があり、計画地はその趣が残る商店街や櫛田宮に近い市の中心に位置しており、周辺との景観的な調和が必要と考えます。加えて、市のシンボルとして長く時を重ねていくため、維持管理しやすい施設であることが重要と考えます。これらを踏まえ、以下の3項目を特徴とする外装デザインとします。

#### 1 神埼の町と調和する外観計画

歴史ある神埼市の新庁舎として、日本的意匠の要素の外観とすることで、周辺の街並みと調和し、「市の新たな顔」となる庁舎とします。軒のある外観と、漆喰壁や焼き杉を基調色とすることで、現代的な和を感じる佇まいとします。



■長崎街道「神埼宿」の趣を残す街並み

#### 2 周辺環境に配慮した低層基壇部を持つ庁舎

周辺には比較的低層な建物が多いことから、庁舎は低層部分と高層部分とがある平面構成とし、低層部分を建物前面に配置することで周辺への圧迫感を軽減します。また、低層部分を開放的な外装とすることで、市民が訪れやすい外観イメージとします。

#### 3 維持管理しやすい施設

維持管理のかけりにくい外装材を選定するとともに、サービス用バルコニーを設置することで、ガラスや外壁等の維持管理を行いやすい計画とします。

